

序 文

当巻は、カードマジックのメジャーな現象について、体系的に収録いたしました。

プリディクションの章には、‘パーフェクトプリディクション’という、最強の作品が収録されています。バノコールのアイデアにもとづく私の改案です。自分の作品を自慢することは極力避けてきましたが、私の代表作と自負するものです。

‘ドゥーアズアイドゥー’は、キーカードによる‘カード当て’の演出の一種であるようにも思えますが、それは手法の観点での見方であり、現象の観点で考えると適切ではありません。相手とマジシャンの行為が共鳴するという、共鳴現象、もしくは一致現象であるにとらえるべきです。長谷和幸氏の作品が群を抜いています。

リバース現象については、トリックカード使用も含めて、様々な原理や手法によるものを分類収録いたしました。‘トライアンプ’にきらめくバリエーション群があります。

トランスポジション現象は、カードとカードが入れ替わる交換系と、カードが別の場所に移動する飛行系とに大別できます。今回の調査において‘アンビシャスカード’の原点を見つけることができました。この作品中のセリフの見事さをお見逃しなく。

‘オイル&ウォーター’では、ホフジンサーにさかのぼる現象の原点と、水と油が混ざらないという演出の原点が、エドワード・マルロー以前にあったことを発見いたしました。また手前味噌で恐縮ですが、私の‘インタレースミックス’は、とかく理論的な現象になりがちな‘オイル&ウォーター’に、ビジュアルインパクトを与えたものです。

‘アウトオブジスワールド’においては、途中でリーダーカードをさし替えなければならないことの問題点が、多くのマジシャンによって工夫されてきました。ポール・ハリスの‘ギャラクシー’のような、強引とも思える手法が一世を風靡したこともありますが、赤と黒のパケットを重ねないという根本的な対処法も生まれました。

それぞれの分野の歴史的な流れを見ると、カードマジックにかけるマジシャンたちの情熱と執念を感じます。それらを学んだ私たちは、それらをアートに昇華させるための感性を磨き、よりレベルの高いものとして後世に伝えたいものです。

2010年4月28日

加藤 英夫